

第Ⅳ部門

水辺空間の変遷を共有するための遊び場マップの研究

立命館大学理工学部 正会員 笹谷 康之
立命館大学理工学部 学生員 ○笹谷 幸司

1 はじめに

近年都市化が進展していく中で、身近に接することができる水辺が減少し、昔のように子どもが遊べなくなっている。そこで本研究では、草津川流域集落を対象とし、水辺の遊び場と子どもの自然観の生い立ちの変遷を三世代に分けて調査することにより、水辺空間と子どもの遊びの変遷を明らかにし、世代を超えての意識の共有ができるような地域コミュニティの形成のためのデータの共有のあり方を提案することを目的とする。

2 研究の方法

研究の手法として、「3 世代遊び場マップ」づくりの手法や「水環境カルテ」²⁾に基づく現地での聴き取り調査・アンケート調査・ワークショップを行った。調査者数を表 2-1 に示す。

表 2-1 調査票の一覧

対象地域	対象集落	祖父母世代	親世代	子供世代
草津川上流	大津市上田上町生町 草津市馬場町 草津市山寺町 草津市岡本町 草津市若草	聴き取り調査：15人 アンケート調査 志津小学校：3人	聴き取り調査：8人 アンケート調査 志津小学校：7人	アンケート調査 志津小学校：13人 ワークショップ 志津南小学校：2クラス
草津川中流	草津市青地町 草津市追分町 草津市草津 草津市草津町 草津市大路 草津市西大路町 草津市東草津 草津市西草津 草津市渡川	聴き取り調査：1人 アンケート調査 志津小学校：10人 草津小学校：4人 市民会議：4人	聴き取り調査：1人 アンケート調査 志津小学校：33人 草津小学校：16人 市民会議：6人	アンケート調査 草津小学校：29人 志津小学校：42人 草津市水泳教室：11人 天気が村：2人
草津川下流	草津市山田町 草津市木川町 草津市北山田町 草津市南山田町 草津市下笠町	アンケート調査 山田小学校：38人	アンケート調査 山田小学校：95人	アンケート調査 山田小学校：105人 草津市水泳教室：5人

・調査対象者は以下の3世代である

祖父母世代(戦前の水遊び)昭和初期～昭和30年生まれ

親世代(戦後の水遊び)昭和30年～昭和60年生まれ

子供世代(最近の水遊び)現在の小学生5,6年生

・調査対象地域の分類

草津川上流集落：農業集落
で山林で形成
草津川中流集落：宿場町として発達し平地に立地
草津川下流集落：農業集落で副業で漁業

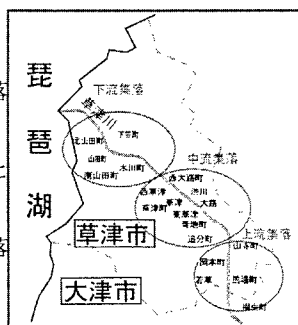


図 2-1 調査対象集落

3 アンケートの集計

三世代で遊び環境がどう変化したかについて以下に示す。

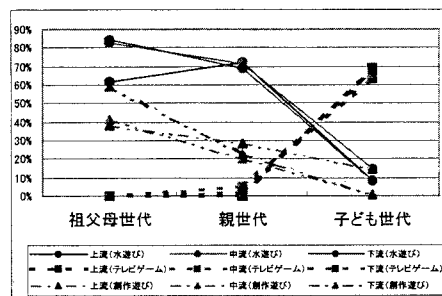


図 3-1 世代・地域の遊びの変化

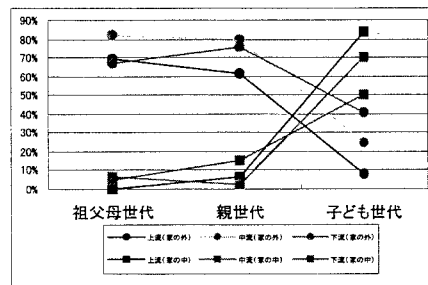


図 3-2 世代・地域遊び場の変化

祖父母世代・親世代に比べ子ども世代が水辺空間から遠ざかっていること、子ども世代の遊びの室内化を明らかにすることができた。

小学生が「どこで、誰と、何をして遊んでいるのか」ワークショップを行った。その結果を以下に示す。

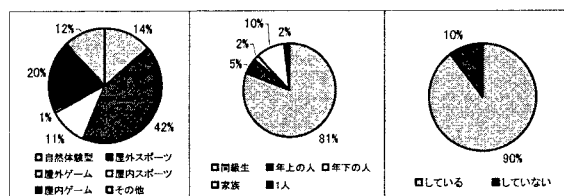


図 3-3 遊びのタイプ

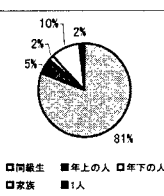


図 3-4 遊び仲間

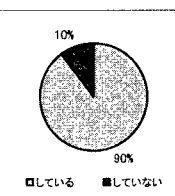


図 3-5 塾、習い事

以上の結果や親世代・祖父母世代のアンケートの意見により次の5点が明らかになった。

- (1) 遊び場(自然や水辺空間)の減少
- (2) 室内での遊びの快適性の向上
- (3) 自動車や社会的背景(誘拐等)のマイナス的要因
- (4) 地域とのコミュニケーション(遊び仲間)の変化
- (5) 塾や習い事などによる時間の喪失

4 三世代遊び場マップの作成

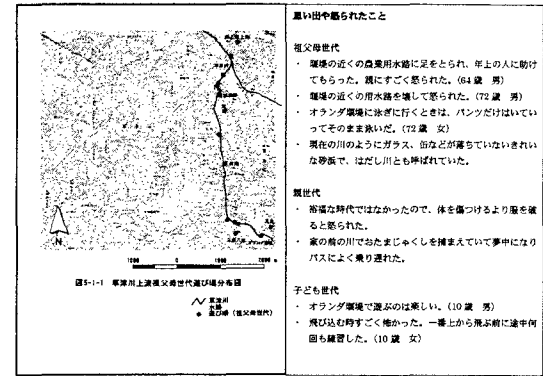


図 4-1 草津川上流遊び場マップ

世代・地域ごとに図 4-1 のように遊び場マップを作成し、ポイントごとに遊びの内容、子供時代の水辺に関する思い出、場所の様子を示すことができた。マップ作成により、世代・地域ごとに水辺の遊び場の変遷を図に表すことができ、以下のような特徴を出すことができた。

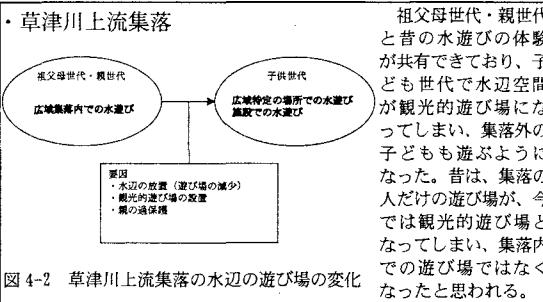


図 4-2 草津川上流集落の水辺の遊び場の変化

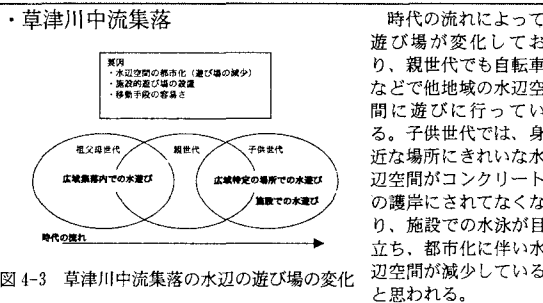


図 4-3 草津川中流集落の水辺の遊び場の変化

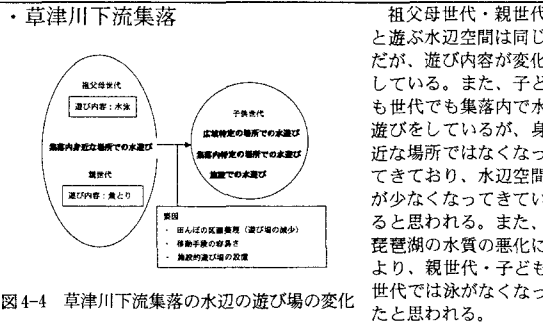


図 4-4 草津川下流集落の水辺の遊び場の変化

以上のことより、水辺遊び場の変化を次の表にまとめることができる。

表 4-1 水辺の遊び場の変化

	祖父母世代	親世代	子供世代
上流集落	広域集落内での水遊び	広域集落内での水遊び	広域特定の場所での水遊び 施設での水遊び
中流集落	広域集落内での水遊び	広域集落内での水遊び	広域特定の場所での水遊び 施設での水遊び
下流集落	集落内身近な場所での水遊び (遊び内容：水泳・魚釣り)	集落内身近な場所での水遊び (遊び内容：魚釣り)	広域特定の場所での水遊び 集落内特定の場所での水遊び 施設での水遊び

広域集落内での水遊び、広域特定の場所での水遊び、施設での水遊び、集落内身近な場所での水遊び、集落内特定な場所での水遊びと分類することができる。子ども世代の水辺での遊びは、どの地域でも遊び場の減少が要因としてあげられ、水質の悪化や水路・溜池の埋め立て、水田の区画整理、護岸のコンクリート化等がある。また、自動車や自転車といった移動手段の容易さ、プールといった施設などが子どもの遊びの環境を変えていったことが明らかになり、集落（地域ごと）に水辺の遊び場の変化があることが分かった。

5 まとめ

以上のことにより次の事を明らかにした。

- ①世代の移り変わりにより、水辺での遊びが減少傾向にある。
- ②今の子供が水辺空間から離れた理由として、5つの要因があることが明確になった。
- ③草津川流域を上流、中流、下流と対象地域を分類したが、地域ごとに水辺の遊び場の変遷を大きく集落内での水遊び、特定の場所での水遊び、施設での水遊びと分類し図式化することができた。

今後の課題として、2002 年から実施される学校週 5 日制の施行に伴い、小学校での地域への教育は大事になってくる。三世代遊び場マップ作成により、昔の体験や知識を地域の人(子どもからお年寄り)に共有することにより、今後の遊び環境の改善に有効と推測できる。また、本研究で作成した水辺遊び場カルテを児童が主体的に地域の人と話をし、自分の地域ことをもっと知り、子どもも参加型の水辺遊び場マップを作成し、環境学習できるような地域コミュニティへ提案ができると考えられる。

三世代遊び場マップをホームページで公開することにより、子どもと地域のコミュニケーションの活性化ができると考えられる。

参考文献

- 1) 「三世代遊び場図鑑」子どもの遊びと街研究会(1984)
- 2) 水遊びの生態学 喜田由紀子・遊磨正秀 人間選書(2000)